

【全体概要】

既存品種(特に巨峰)による栽培面積が7割以上を占める本県では、温暖化による着色遅延や着色不良が懸念されるため、優良品種導入と省力化が可能な技術等の普及が急務となっている。

そこで、生産安定と省力化が可能な短梢平行整枝等の栽培技術を現地実証しながら、既存品種より消費者ニーズが高く、温暖化等の気象変動による品質低下の影響が少ない無核大粒の優良品種や、増産拡大要望が多い醸造用ぶどうの生産拡大を進めるため、本事業に取り組んだ。

新品種・新技術等の概要

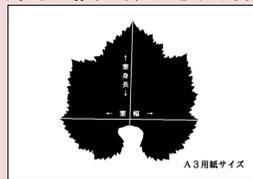
- 1 新品種 シャインマスカット、クイーンニーナ等
- 2 新技術
 - (1)シャインマスカットの短梢平行整枝による早期成園化
 - (2)シャインマスカット、クイーンニーナ等の種なし栽培
 - (3)クイーンニーナ等赤系大粒品種の着色向上
 - (4)多雪地域における簡易雨よけ栽培
 - (5)醸造用ぶどうの根圏制限栽培



導入の手引き

主な取組内容

- 1 品種・技術の特性把握
 - 2か年で県内のべ16か所の実証ほを設置
- 2 検討会の開催
 - 実証ほの現地巡回、成績検討会を開催
- 3 産地・実需者等のマッチング活動
 - 直売所、製菓業者、ワイナリー等へのマッチング活動を実施
- 4 栽培・技術マニュアルの作成
 - 実証成績を中心に導入の手引きを作成
- 5 新品種の葉面積指数(LAI)取得
 - 撮影画像による簡易測定方法の検討と、正確な葉面積測定方法作成

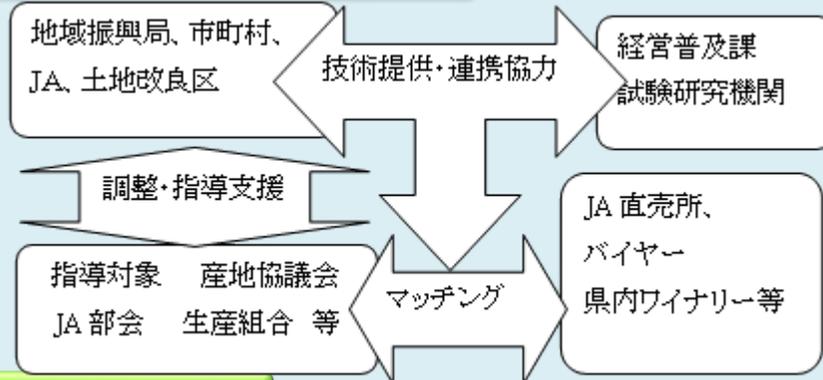


スキャナーによる葉面積測定



シャインマスカットと地元スイーツメーカーとのマッチング

実施体制図



実績と今後の展開

- 1 シャインマスカットの出荷数量増加
 - 全農にいがたにおけるシャインマスカット販売比率はぶどう全体の11.2%(H30) → 17.3%(R1) → 23.4%(R2)
 - 巨峰は 63.7%(H30) → 60.3%(R1) → 54.7%(R2) と減少。
- 2 シャインマスカット早期成園化実証
 - ぶどう栽培未経験者が短梢栽培平行整枝を導入。令和2年(定植3年目)で1トン/10アールを達成した。
- 3 クイーンニーナの着色向上技術
 - 無核化処理技術や環状はく皮、透明果実袋の実証によって着色向上を図り商品価値を高めた。
- 4 ワイナリー向け栽培面積の増加
 - 上越地域ではワイナリーとのマッチングにより、令和元年にマスカット・ベリーAの根圏制限栽培を14アール導入。令和2年には水田転換園等で2ha新規植栽(うち稲作法人20アール)された。
- 5 新潟県のぶどう産地づくりへ向けて
 - 導入の手引きを活用して新規栽培者の掘り起こしを進め、生産拡大を図り、水稲+ぶどうの経営類型を波及させていく。